



学校図書館実践事例集

本と子どもをつなぐ学校図書館 ～沖縄県立沖縄盲学校～



児童生徒が安心して 使える図書館づくり



特別支援学校ごとの特徴に合わせた、生徒が安心して利用したいと思わせるような図書館の紹介をします。

1 レイアウトの工夫



■図書館としてできること

弱視や全盲の生徒が所属しているので、他の学校図書館とは違い、読書を楽しむサポートをするものや工夫がたくさんあります。

図書館出入口の工夫



図書館に到着したことが分かるように鈴をつけています

点字ブロックもあります



点字でリクエストが出来るようになっています

館内にも点字ブロックがあります



触れて分かる館内地図です

■資料について

盲学校なので、点字や大活字の資料、録音資料やさわる絵本などもあります。また、読書をサポートする機械も置いています。



普通の本よりも大きな文字
で書かれた本のコーナー

点訳小説も揃えています



1冊の国語辞典を点字にするとこんなに分冊されます

読書をサポートする機械たち





写真は「3匹のこぶた」のわらの家、木の家、レンガの家です。わらと木とレンガの感覚を触って覚えられるようになっています。

視覚だけで情報を得ることが難しい盲学校生のために、触って資料情報を補充できるように工夫されている「さわるえほん」がたくさんあります。

児童生徒と本との「であい」をつくる



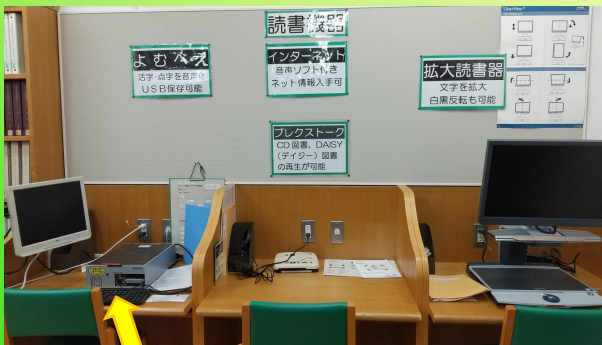
本が読みたい！という子どもたちのために多くの本に触れてもらう取組みについて紹介します。

1 学校の取組



■読みたいを諦めさせない

弱視や全盲の生徒が在籍する盲学校では、視力を補うためのサポートが充実しています。



対面朗読室では資料の朗読サービスを行います



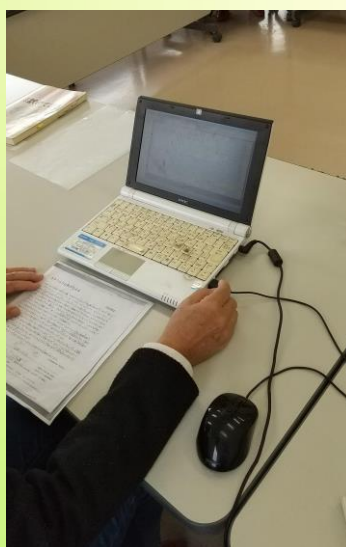
「よむべえ」という機械は活字や点字の資料を読みこんで音声で伝える機械です。こちらの機械は生徒たちが点字で提出した宿題を文字化して先生たちが添削するのに活用されています。

2 地域との連携



■ボランティアさんとの連携

沖縄盲学校では毎週水曜日にボランティアさん達が来てくれて、資料の点訳を行ってくれます。点字の資料はまだまだ出版数が少ないので、点訳ボランティアさんたちが本を点訳してくれるおかげで生徒はいろいろな本に触れる機会を持つことができます。



資料を点訳するには時間も人手もかかります。
点訳したあとは、点訳がきちんとできているのか
チェックも行っています。



点字を印刷できるプリンターもあります

■県立図書館・市立図書館との連携

県立図書館・市立図書館から団体貸出で借りた本も生徒へ貸出しています。

■他の特別支援学校や北部地域の学校との連携

他の特別支援学校同士で研修や情報交換をすることもあります。特別支援学校同士でマニュアルも作成して、新しく赴任する司書に引き継がれています。

全体のテーマと学校種別のテーマで情報交換も行います。



■全国各地からの寄贈も受けています

全国各地からご厚意による寄贈の本がたくさんあります。

沢山の寄贈のおかげで図書館の資料が潤います



有名な本や流行本も点訳されて送られてきます。

沖縄盲学校には、幼稚部から専攻科まで幅広い年齢の方が在籍しています。県内唯一の盲学校であるため、生徒の視覚をサポートする体制は県内で一番整っている学校です。学校経営の柱である「開かれた学校づくり」に基づき、外部のボランティアさん達や公共図書館と協力し、図書館の充実を図っています。